

人物着彩

担当教員 工藤礼二郎、鈴木吐志哉

受講アトリエ 【901・601・602】 修得単位：1単位

2020/11/30(月)-12/17(木)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

人体コスチュームモデルを固定ポーズにより描画する。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	11月30日	月		アトリエ片付け/美術日本語	○	ガイダンス/学生間クロッキー	工藤/鈴木
2	12月1日	火	○	学生間クロッキー	○	モデルによる制作	工藤
3	12月2日	水		視覚文明史		モデルによる制作	
4	12月3日	木		Mac講座B	○	モデルによる制作	工藤
5	12月4日	金		日本美術史B/英会話	○	モデルによる制作	工藤/鈴木
6	12月5日	土		制作/フランス語		制作と展示	
7	12月6日	日					
8	12月7日	月		制作/美術日本語	○	モデルによる制作	鈴木
9	12月8日	火	○	制作	○	モデルによる制作	工藤
10	12月9日	水		視覚文明史		モデルによる制作	
11	12月10日	木		Mac講座B		モデルによる制作	
12	12月11日	金		日本美術史B/英会話	○	中間講評	工藤/鈴木
13	12月12日	土		創形展		創形展講座	
14	12月13日	日					
15	12月14日	月		制作/美術日本語	○	モデルによる制作	鈴木
16	12月15日	火	○	制作	○	モデルによる制作	工藤
17	12月16日	水		視覚文明史		モデルによる制作	
18	12月17日	木		Mac講座B	○	講評	工藤/鈴木

学習目標

この授業では、単に人体の再現的描写にとどまらず、それを取り巻く空間との関係性や近代以降の人体表現の在り方を様々な角度から検証する。

予習・準備物

F20号キャンバスもしくはB2パネルに紙

注意事項

評価方法

提出課題による採点

制作と展示

担当教員 久保田球愛

受講アトリエ [601・602・901・ギャラリープリント]

2020/11/14(土)-2021/2/27(土)

修得単位：0.5単位

9：30 -12：40 13：30-16：30

授業内容

ギャラリー・プリントにて、グループごとに公開制作・展示を行います。授業外の今後の制作活動においても活かせるような実践的なスキルを学習し、一つの展示を自分たちで作り上げる力を養います。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	11月14日	土		フランス語	○	オリエンテーション・講義	
2	11月21日	土		フランス語	○	講義・指導（実演）・制作	
3	11月28日	土		フランス語	○	講義・指導（実演）・模擬展示・制作	
4	12月5日	土		フランス語	○	講義・指導（実演）・制作	
5	1月16日	土		フランス語	○	講義・指導（実演）・模擬展示・制作	
6	1月23日	土			○	各グループごとの話し合い（展示テーマ、企画構成、スペース決め等）・制作	
7	2月6日	土			○	グループ同士でのディスカッション（テーマ発表・スペースの決定）・制作	
8	2月13日	土		制作	○	指導・制作	
9	2月27日	土	○	制作・展示	○	展示・講評	

学習目標

企画構成・発信・展示を一貫して行えるようになることを目標としています。

予習・準備物

・汚れてもいい服装（教室に置いておける着替えがあると良いかもしれません）、各自作品作りに使用したい画材、筆記用具などの用意をお願いします。・時間があれば、興味のある展覧会へ行ってみてください。興味のある分野であればジャンルは問いません。作品の内容だけでなく、空間の演出や構成や経緯など、自分の展示に活かせるヒントになるよう意識をしながら鑑賞しましょう。（友人の展示などでもOK）もしくは、Web展覧会やネットで過去に興味のあった展覧会の様子を調べてみてください。

注意事項

制作中や展示の飾り付けの際は衣服が汚れる恐れがありますので、授業中は基本的に汚れても良い服装で参加してください。※最終日27日（土）は展示の搬入があります。この日はスカートや歩きづらい靴（サンダルやヒールの高いもの等）は避けてください。

評価方法

授業態度・積極性・達成度など、詳細は初日のオリエンテーションにてお伝えします。

アニメーション基礎

担当教員 飯田 萌

受講アトリエ 【602】 修得単位：1単位

2020/11/12 (木)-11/27(金)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

映像研究と制作（自由な発想で）

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考	
1	11月12日	木		Mac講座B	○	オリエンテーション		
2	11月13日	金		日本美術史B/英会話		専攻ガイダンス		
3	11月14日	土		制作/フランス語		制作と展示		
4	11月15日	日						
5	11月16日	月		制作/美術日本語		制作		
6	11月17日	火		制作		制作		
7	11月18日	水		視覚文明史	○	制作・作品鑑賞		
8	11月19日	木		Mac講座B	○	制作・作品鑑賞		
9	11月20日	金		日本美術史B/英会話	○	制作・作品鑑賞		
10	11月21日	土		制作/フランス語		制作と展示		
11	11月22日	日						
12	11月23日	月	勤労感謝の日					
13	11月24日	火		制作		制作		
14	11月25日	水		視覚文明史	○	制作・作品鑑賞		
15	11月26日	木		Mac講座B	○	講評		
16	11月27日	金		日本美術史B/英会話		後片付け		

学習目標

手描き、コマ撮り（実写も可）など、自由な表現でアニメーションを制作。編集作業はPremiereを使用する。

予習・準備物

画材（シャープペン、蛍光ペンはNG。）色鉛筆や太いサインペン。その他使いたい画材を持参。

注意事項

自由度が高い課題ですが、アニメーションは枚数を描かないと動きません。詳しくはガイダンスにて説明しますが、一枚の絵を描き込むのではなく、枚数をたくさん描く課題だと考えておいてください。

評価方法

提出課題による採点

テンペラ画

担当教員 安藤孝浩、工藤礼二郎

受講アトリエ 【601・602】 修得単位：2単位

2020/10/28(水)-2020/11/11(水)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

木材板の基材に地塗りをしてパネルを作る。卵テンペラ（水性画材）をつくり、描画材として絵画模写をする。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考	
1	10月28日	水		視覚文明史	○	オリエンテーション、下地作り、下絵（転写）	PM安藤、工藤	
2	10月29日	木		Mac講座B	○	金箔分け、ボーロ塗り、金箔貼り	PM安藤、工藤	
3	10月30日	金		日本美術史B/英会話	○	金箔貼り、卵テンペラ	PM安藤、工藤	
4	10月31日	土		制作/フランス語	○	卵テンペラによる描写	PM安藤、工藤	
5	11月1日	日						
6	11月2日	月		健康診断	○	"	PM安藤、工藤	
7	11月3日	火	文化の日					
8	11月4日	水		視覚文明史	○	"	PM安藤	
9	11月5日	木		Mac講座B		"		
10	11月6日	金		日本美術史B/英会話	○	"	PM工藤	
11	11月7日	土		制作		"		
12	11月8日	日						
13	11月9日	月		制作/美術日本語	○	"	PM安藤	
14	11月10日	火		制作	○	"	PM安藤、工藤	
15	11月11日	水		視覚文明史	○	講評会	PM安藤、工藤	

学習目標

中世美術からルネッサンス期を経て現代にまで受け継がれてきた卵テンペラ技法を学ぶ。卵で作る絵具の造形の自由さ、楽しさを学ぶ。ここでは技法と描写の関係を理解し、絵画表現の幅広い可能性を追求する。絵画模写をしながらテンペラ技術の基礎と応用を修得する。

予習・準備物

面相筆、細筆、絵皿、鉛筆

注意事項

評価方法

提出課題による採点と授業態度も評価に加味する（作品評価50点 授業態度50点 合計100点満点）

フレスコ画

担当教員 杉崎匡史

受講アトリエ 【901・602】 修得単位：2単位

2020/10/28(水)-2020/11/11(水)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

古典技法としてのフレスコ画技法を模写を通して試みる。物質が変化していく、その体験を目の当たりにしながら、実直に絵と向き合う時間に身をゆだね、その中で自身の展開に繋がられるのか考えてみる。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考	
1	10月28日	水		視覚文明史	◎	ガイダンス、モルタル作り	フレスコはがし	
2	10月29日	木		Mac講座B	◎	モルタル再練り、地塗り	壁荒らし	
3	10月30日	金		日本美術史B/英会話	◎	カルトーン制作、拡大原画に穴アケ	ジョルナータ決め	
4	10月31日	土		制作/フランス語	◎	モルタル再練り、中塗り、シノピア	壁荒らし、顔料練り	
5	11月1日	日						
6	11月2日	月		健康診断	◎	モルタル再練り、上塗り①、描画①		
7	11月3日	火	文化の日					
8	11月4日	水		視覚文明史	◎	モルタル再練り、上塗り②、描画②	壁塗りつぎ	
9	11月5日	木		Mac講座B		上塗り③、描画③	壁塗りつぎ	
10	11月6日	金		日本美術史B/英会話	◎	モルタル再練り、上塗り④、描画④	壁塗りつぎ	
11	11月7日	土		上塗り⑤		描画⑤	壁塗りつぎ	
12	11月8日	日						
13	11月9日	月		制作/美術日本語	◎	モルタル再練り、上塗り⑥、描画⑥	壁塗りつぎ	
14	11月10日	火		上塗り⑦		描画⑦、完成へ	壁塗りつぎ	
15	11月11日	水		視覚文明史	◎	片付け、講評会		

学習目標

油彩画以前の一つの古典技法であるフレスコ画技法は、消石灰と砂を混ぜたもので漆喰壁を作り、その壁が乾き切らぬうちに顔料を水のみで溶いて描ききるもので、空気中の二酸化炭素と反応した石灰成分が顔料を閉じこめ、半永久的に壁画は色褪せることがない。壁や石灰といった素材の強さにおいては代え難いものがあり、光沢の無い自然な質感や、制約の中で必要とされる高い集中力、五感だけでなく身体を目一杯使って体感することなど、その中に潜む一つの可能性を探求する。

予習・準備物

プチパレット、ペーパーパレット、やわらかい丸筆平筆・彩色筆・刷毛(小)・面相筆など、(豚毛不可)、筆洗用具(大)、汚れても良い服装、箱ティッシュ、ペインティングナイフ、サランラップ、マスキングテープ、ハンドクリーム等

注意事項

制作工程を踏まないとフレスコになりません

評価方法

提出課題による採点、制作への工夫、共同作業への積極的な参加

イラストレーション基礎

担当教員 飯田淳、岡山拓史

受講アトリエ 【901・601・602】 修得単位：1単位

2020/10/12(月)-2020/10/27(火)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

イラストレーションの仕事において求められる事・物を企画。アイデアを通して学ぶ。イラストレーションのマーケットでのオリジナリティー、個性の重要性を作品制作で体験する。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	10月12日	月		アトリエ準備/美術日本語	○	オリエン/制作	飯田・岡山
2	10月13日	火	○	制作	○	制作	飯田・岡山
3	10月14日	水		視覚文明史		自主制作	
4	10月15日	木		Mac講座B		自主制作	
5	10月16日	金		日本美術史B/英会話	○	制作	岡山
6	10月17日	土		制作/フランス語		伝統と現代	
7	10月18日	日					
8	10月19日	月		制作/美術日本語	○	制作	岡山
9	10月20日	火	○	制作	○	制作	飯田・岡山
10	10月21日	水		視覚文明史		自主制作	
11	10月22日	木		Mac講座B	○	制作	飯田
12	10月23日	金		日本美術史B/英会話	○	制作	飯田
13	10月24日	土	○	制作		伝統と現代	飯田
14	10月25日	日					
15	10月26日	月		制作/美術日本語	○	制作	飯田
16	10月27日	火	○	講評	○	講評	飯田・岡山

学習目標

イラストレーションの仕事と自分らしい表現の発見。

予習・準備物

鉛筆、着彩道具、クロッキー帳等

注意事項

評価方法

課題提出による採点

銅版画基礎

担当教員 長島 充

受講アトリエ 【901・602・工房】 修得単位：2単位

2020/10/01(木)-2020/10/10(土)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

腐食銅版画の中で最も基本的な技法であるライン・エッチング技法によりモノクロームの銅版画1点(18×24cm)を制作します。ドローイングにも感覚の近い線描と点描を用いて自然物を観察し銅板という物質に表現していきます。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	10月1日	木		Mac講座A	○	ガイダンス	
2	10月2日	金		日本美術史B/英会話		制作	
3	10月3日	土	○	制作指導	○	制作指導	
4	10月4日	日					
5	10月5日	月		制作/美術日本語		制作	
6	10月6日	火	○	制作指導	○	制作指導	
7	10月7日	水		視覚文明史	○	制作指導	
8	10月8日	木		Mac講座A		制作	
9	10月9日	金		日本美術史B/英会話	○	本摺り指導	
10	10月10日	土		制作/フランス語	○	講評会	

学習目標

銅版画の基本的なエッチング技法での制作により版画に親しんでもらう。「自然物」をモチーフに線描と点描によるモノクロームの描写力・表現力を養う。

予習・準備物

初日のガイダンスの日にテーマ「自然物」をモチーフとした版と同サイズ(18×24cm)の下絵を各自制作し、必ず持ってくること。

注意事項

工房使用にあたって、薬品類、プレス機、工具類など危険を伴う物もあるため、使用するときは講師や助手の指示に従うこと。

評価方法

課題作品70%(描写力と表現力)、制作姿勢など30%

シルクスクリーン基礎

担当教員 東樋口徹

受講アトリエ 【601・602・工房】 修得単位：2単位

2020/10/01(木)-2020/10/10(土)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

基本的な水性インクで紙に刷る4版以上を使った作品（A4/21cm×29.7cm）を一点（紙8枚程度）制作。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	10月1日	木		Mac講座A	○	オリエンテーション・技法説明	
2	10月2日	金		日本美術史B/英会話	○	技法説明(刷り)	
3	10月3日	土		制作	○	制作	
4	10月4日	日					
5	10月5日	月		制作/美術日本語	○	制作	
6	10月6日	火	○	制作	○	制作	
7	10月7日	水		視覚文明史		制作	
8	10月8日	木		Mac講座A	○	制作	
9	10月9日	金		日本美術史B/英会話		制作	
10	10月10日	土		制作/フランス語	○	講評	

学習目標

シルクスクリーンは別名孔版と呼ばれ、型染めの型紙と紗が組み合わされて改良されたものです。枠に張った紗の目を unnecessary 部分は塞ぎ、画の孔(穴)の部分からスキージによって下の紙にインクを落として刷る技法です。授業においてはいくつかの製版方法がありますが、現在一般的に行われる直接感光法を学びます。基礎を身に付け各自のイメージに近づける作品作りを目指します。

予習・準備物

下絵、紙コップ、プラスチックスプーン、ウエス(ボロ布)、新聞紙、用紙(いづみ中判4枚またはA3厚紙ケント紙8枚分)、制作マニュアル、マスキングテープ、試し刷り用紙(なんでも可)

注意事項

初日までに下絵(アイデアスケッチ)を用意すること。

授業では汚れても良い格好(エプロン等)をしてください。

評価方法

習熟度と提出課題による採点

美術日本語

担当教員 メロス言語学院

受講アトリエ【 】

修得単位数：2単位

2020/9/7(月)-2020/12/14(月)

*本科留学生は文章技法論と選択

9：30-12：40

授業内容

- 1.1分間スピーチ（30分）
- 2.美術関係記事についてのディスカッション（50分）
- 3.映像教材を用いた美術用語導入（90分）
- 4.前回導入した美術用語のチェック小テスト（10分）
- 5.課外宿題

授業スケジュール/計画

	出講日	曜日	指導	AM	指導	PM
1	9月7日	月	○	美術日本語/文章技法論		実技カリキュラム
2	9月14日	月	○	美術日本語/文章技法論		実技カリキュラム
3	9月28日	月	○	美術日本語/文章技法論		実技カリキュラム
4	10月5日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
5	10月12日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
6	10月19日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
7	10月26日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
8	11月9日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
9	11月16日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
10	11月30日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
11	12月7日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム
12	12月14日	月	○	美術日本語		実技カリキュラム

学習目標

美術・デザインに関する専門用語の勉強によって、日本語（特に口語能力）の向上を目標として挙げます。

予習・準備物

筆記用具、前回授業で配ったプリント用紙

注意事項

予習復習を徹底すること。*ビジュアルデザイン科2年生は受講できません。

評価方法

出席日数/授業態度による採点

前期ファインアート科基礎「写真と絵画」

担当教員 工藤礼二郎、鈴木吐志哉

受講アトリエ [901・902] 修得単位：1.5単位

2020/9/1(火)-2020/9/30(水)
9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

17世紀の「カメラ・オブスクラ」に始まり19世紀に確立された「写真」は絵画表現にも多大な影響を与えました。この授業では「写真のように描く」といった直截的な手法ではなく「写真」の中の様々な要素を抽出、拡大、整理、合成などの手法を用い、近代以降様々な表現を生み出した「絵画」の世界を紐解きながら絵画の魅力と可能性を再発見してみましょう。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	9月1日	火	○	ガイダンス/写真撮影①	○	写真撮影①	am工藤/鈴木 pm工藤
2	9月2日	水		色彩論	○	写真からの展開①	鈴木
3	9月3日	木		Mac講座A	○	写真からの展開①/制作	工藤
4	9月4日	金		日本美術史 英会話	○	制作	工藤
5	9月5日	土		制作/フランス語		伝統と現代	
6	9月6日	日					
7	9月7日	月		文章技法論/美術日本語	○	制作	
8	9月8日	火	○	制作	○	制作	am・pm工藤
9	9月9日	水		色彩論	○	制作	工藤
10	9月10日	木		Mac講座A	○	制作	鈴木
11	9月11日	金		日本美術史 英会話		制作	
12	9月12日	土		制作/フランス語		伝統と現代	
13	9月13日	日					
14	9月14日	月		文章技法論/美術日本語	○	中間講評	工藤/鈴木
15	9月15日	火		写真撮影②	○	写真撮影②/写真からの展開②	工藤
16	9月16日	水		色彩論	○	写真からの展開②	鈴木
17	9月17日	木		Mac講座A	○	制作	工藤
18	9月18日	金		制作/英会話		後期ガイダンス	
19	9月19日	土		創立記念日振替休日			
20	9月20日	日					
21	9月21日	月		敬老の日			
22	9月22日	火		秋分の日			
23	9月23日	水		色彩論	○	制作	工藤
24	9月24日	木		Mac講座A	○	制作	工藤
25	9月25日	金		日本美術史 英会話	○	制作	工藤
26	9月26日	土		制作/フランス語	○	制作	鈴木
27	9月27日	日					
28	9月28日	月		文章技法論/美術日本語	○	制作	鈴木
29	9月29日	火	○	制作	○	制作	am工藤 pm工藤
30	9月30日	水		制作	○	講評	工藤/鈴木

学習目標

現代の絵画や版画に強い影響を与えた西洋近代絵画の種々の表現に触れ、絵に対する視野を広げながら描くことの楽しさを見つける授業です。

予習・準備物

水彩、アクリル、油彩用具など必要に応じて学生が準備する。 キャンバスF10号各自2枚支給。

注意事項

講師の指導日は講師が出席を取りますが、指導日以外でも授業日は助手が出席を取ります。

評価方法

課題提出による採点

前期ビジュアルデザイン科基礎

担当教員 山本哲次、岡山拓史

受講アトリエ [] 修得単位：1.5単位

2020/9/1(火)-2020/9/30(水)
9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

イラストや文字情報を限られたスペースの中に収めながら、音楽から受けるイメージを広げて、ビジュアルで表現することを学びます。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	9月1日	火	○	オリエンテーション	○	制作	担当：山本・岡山
2	9月2日	水		色彩論	—	自主制作	-
3	9月3日	木		Mac講座A	○	制作	担当：岡山
4	9月4日	金		日本美術史 英会話	○	制作	担当：山本・岡山
5	9月5日	土		制作/フランス語		伝統と現代	
6	9月6日	日					
7	9月7日	月		文章技法論/美術日本語	—	自主制作	-
8	9月8日	火	—	自主制作	—	自主制作	-
9	9月9日	水		色彩論	○	制作	担当：山本
10	9月10日	木		Mac講座A	○	中間講評1 (岡山)	担当：岡山
11	9月11日	金		日本美術史 英会話	—	自主制作	-
12	9月12日	土		制作/フランス語		伝統と現代	
13	9月13日	日					
14	9月14日	月		文章技法論/美術日本語	—	自主制作	-
15	9月15日	火	○	制作	○	制作	担当：岡山
16	9月16日	水		色彩論	○	中間講評2 (山本)	担当：山本
17	9月17日	木		Mac講座A	○	制作	担当：岡山
18	9月18日	金		制作/英会話		後期ガイダンス	
19	9月19日	土		創立記念日振替休日			
20	9月20日	日					
21	9月21日	月		敬老の日			
22	9月22日	火		秋分の日			
23	9月23日	水		色彩論	○	中間講評2 (山本)	担当：山本
24	9月24日	木		Mac講座A	○	制作	担当：岡山
25	9月25日	金		日本美術史 英会話	○	制作	担当：岡山
26	9月26日	土		制作/フランス語	—	自主制作	-
27	9月27日	日					
28	9月28日	月		文章技法論/美術日本語	—	自主制作	-
29	9月29日	火	○	制作	○	制作	担当：岡山
30	9月30日	水	○	講評	○	講評	担当：山本・岡山

学習目標

○自分の好きなミュージシャンのCDジャケットとポスターをオリジナルで制作します。

予習・準備物

デザインしたいミュージシャンの選定

注意事項

メインビジュアルはオリジナルで描いたイラストを使用すること。
イラストには人を描かないこと。使用画材は自由。

評価方法

授業態度、中間講評1&2、講評での総合評価

日本語能力試験N1対策

担当教員 蔣

修正日：2020.7.1

履修単位数：2

6月8日以降 AM:9:30~/PM:13:30~

授業スケジュール/計画

			AM	PM
1	5月14日	木		N1対策 (ZOOM)
2	5月16日	土	N1対策 (ZOOM)	
3	5月18日	月	N1対策 (ZOOM)	
4	5月21日	木		N1対策 (ZOOM)
5	5月25日	月	N1対策 (ZOOM)	
6	5月27日	水	N1対策 (ZOOM)	
7	5月28日	木		N1対策 (ZOOM)
8	5月30日	土	N1対策 (ZOOM)	
9	6月4日	木		N1対策 (ZOOM)
10	6月5日	金		N1対策 (ZOOM)
11	6月6日	土	N1対策 (ZOOM)	
12	6月15日	月	N1対策 (対面+ZOOM)	
13	6月20日	土	N1対策 (対面+ZOOM)	
14	6月22日	月	N1対策 (対面+ZOOM)	
15	6月27日	土	N1対策 (対面+ZOOM)	
16	6月29日	月	N1対策 (対面+ZOOM) 701	
17	7月6日	月	N1対策 (対面+ZOOM) 701	
18	7月13日	月	N1対策 (対面+ZOOM) 701	
19	7月25日	土	N1対策 (対面+ZOOM) (9時~302)	
20	8月1日	土	N1対策 (対面+ZOOM) (9時~402)	
21	8月10日	月	N1対策 (対面+ZOOM3) 701 (8月8日補講のため)	

学習目標

日本語能力試験を合格すること

予習・準備物

筆記用具

注意事項

取り組み姿勢による採点

評価方法

自主性を伴った授業出席で評価します。

観察力

担当教員 工藤礼二郎

受講アトリエ [] 修得単位：3単位

2020/6/9(火)-2020/8/11(火)

9:30-12:40 13:30-16:30

授業内容

観察力では単に描写力を鍛えるだけでなく、描くことを通して物事を深く見つめることのできる力を養っていきます。それはプロのクリエイターとして必要かつ重要なことです。じっくりと物と対話しながら描くことの面白さと大切さを学びます。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1					○	リモート授業	自宅課題
2	6月9日	火	○	オリエンテーション・鉛筆デッサン(静物)	○	鉛筆デッサン(静物)	B3画用紙・鉛筆
3	6月16日	火	○	木炭デッサン(静物)	○	木炭デッサン(静物)	木炭紙・木炭
4	6月23日	火	○	木炭デッサン(静物)	○	木炭デッサン(静物)	木炭紙・木炭
5	6月30日	火	○	美術解剖学講座	○	人体クロッキー(男性)	木炭紙大クロッキー帳・コンテ
6	7月7日	火	○	美術解剖学講座	○	人体クロッキー(女性)	木炭紙大クロッキー帳・コンテ
7	7月14日	火	○	人体デッサン(男性座りポーズ)	○	人体デッサン(男性座りポーズ)	B3画用紙 or 木炭紙・鉛筆or 木炭
8	7月21日	火	○	人体デッサン(女性寝ポーズ)	○	人体デッサン(女性寝ポーズ)	B3画用紙 or 木炭紙・鉛筆or 木炭
9	7月28日	火	○	水彩描写(顔を描く)	○	水彩描写(顔を描く)	B3画用紙・水張りパネル・水彩
10	8月4日	火	○	基礎油画	○	基礎油画	F12号キャンバス・油彩
11	8月11日	火	○	基礎油画	○	基礎油画	F12号キャンバス・油彩

学習目標

基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。

予習・準備物

注意事項

評価方法

企画力

担当教員 岡山拓史

受講アトリエ [] 修得単位：1.5単位

2020/6/11(木)-2020/8/13(木)

13：30-16：30

授業内容

個人が企画やアイデアを求められる場面は現代社会では非常に多くなっています。企画力ではアイデアの出し方、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、実現力などクリエイティブの世界で必要となるスキルを課題制作を通して養います。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1					○	自宅学習	
2	6月11日	木			○	オリエン / 課題制作A-1	
3	6月18日	木			○	課題制作A-2	
4	6月25日	木			○	課題制作A-3	
5	7月2日	木			○	発表	
6	7月9日	木			○	課題制作B-1	
7	7月16日	木			○	課題制作B-2	
8	7月23日	木			○	課題制作B-3	
9	7月30日	木			○	課題制作B-4	
10	8月6日	木			○	発表	
11	8月13日	木			○	講評	

学習目標

基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。

予習・準備物

注意事項

評価方法

表現力

担当教員 飯田 淳

受講アトリエ [] 修得単位：1.5単位

2020/6/12(金)-2020/8/14(金)

13:30-16:30

授業内容

表現力は柔らかな発想のもと、物や事、ストーリーを色で表現する授業です。決めつけで物を作らず、固定概念に囚われない事。意外性のある課題を通して「自分の枠」を飛び越え、個性が重視されるイラストの世界に近づくための授業でもあります。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1					○	リモート授業	自宅課題
2	6月12日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
3	6月19日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
4	6月26日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
5	7月3日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
6	7月10日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
7	7月17日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
8	7月24日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
9	7月31日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
10	8月7日	金		日本美術史/英会話	○	制作	
11	8月14日	金		日本美術史/英会話	○	講評	

学習目標

基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成員」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。

予習・準備物

課題ごとに指示する。

注意事項

出来る限り授業時間内に制作完成させること。

評価方法

課題提出と授業態度で評価する。

構成力・アートとデザインと社会

担当教員 山本哲次、田中北斗

受講アトリエ [] 修得単位：1.5単位

2020/6/10(水)-2020/8/12(水)

13:30-16:30

*アートとデザインと社会は6/11(木)、6/18(木)、6/25(木)にMac講座Aと1限、2限の入れ替え制で授業を行います。

授業内容

構成力は構図、レイアウトなど、組み立てる力をつける授業です。対象物をじっくり観察し、特徴を捉え、どういう構図やレイアウトがベストなのか、作品の分析や制作を通して身につけていきます。同時にデザインの考え方を学んでいく授業です。また、デザインと合わせ「アートとデザインと社会」について考え、企画立案～ディレクションについて実例を検証しながら学びます。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1					○	リモート授業 シンボルマーク / (描写)	メール授業 (自宅学習課題)
2	6月10日	水		色彩論	○	シンボルマーク (観察・分析)	
3	6月11日	木	○	アートとデザインと社会			
4	6月17日	水		色彩論	○	シンボルマーク / 色面構成 (モノトーン)	
5	6月18日	木	○	アートとデザインと社会			
6	6月24日	水		色彩論	○	シンボルマーク / シンボルマーク制作	
7	6月25日	木	○	アートとデザインと社会			
8	7月1日	水		色彩論	○	シンボルマーク / 検証 / 評価	シンボルマーク講評
9	7月8日	水		色彩論	○	フライヤー / 分解・分析	
10	7月15日	水		色彩論	○	フライヤー / アイデアスケッチ	
11	7月22日	水		色彩論	○	フライヤー / 構築・表現	
12	7月29日	水		色彩論	○	フライヤー / 構築・表現	
13	8月5日	水		色彩論	○	フライヤー / 構築・表現	
14	8月12日	水		色彩論	○	フライヤー / 検証・評価	フライヤー講評・構成力総評

学習目標

将来活動をする上で基本の「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。基礎力をしっかり身に付けることで、2年、3年の専門課程ができるようになる。「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」の5つの力を学ぶ事によって苦手意識を克服し、もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。また、アートとデザインが社会の中でどのような役割を果たすことができるのか、企画立案から制作まで体験する。

予習・準備物

筆記用具・スケッチ用紙。その他は授業初日に説明します。

注意事項

1. 制作本来の目的を意識し、事前の準備をしっかり行いましょう。
2. 遅刻・欠席が無いように注意しましょう。
3. 提出物の期限を守りましょう。
4. アトリエはキレイに使いましょう。
5. 授業・課題制作を楽しみましょう。

評価方法

制作態度・積極性60% (課題作品の完成度はもちろん、演習を期限内に提出することを最低基準とします) 課題作品40%

伝統と現代

担当教員 小林大悟

受講アトリエ [] 修得単位：1.5単位

2020/6/13(土)-2020/10/24(土)

13:30-16:30

授業内容

日本における「伝統」「工芸」とは何か。ワークショップ形式の授業を交えながら様々な素材や題材に触れることで、今後の引き出しとなる経験を積んでいきます。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1					○	リモート授業	オンライン授業(youtube)
2	6月13日	土		日本語能力/フランス語	○	「日本画」絵の具に触れてみよう①共同制作	対面授業
3	6月20日	土		日本語能力/フランス語	○	「日本画」絵の具に触れてみよう②共同制作	対面授業
4	6月27日	土		日本語能力/フランス語	○	「日本画」絵の具に触れてみよう③技法紹介/プチ講評	対面授業
5	7月4日	土		日本語能力/フランス語	○	墨ワークショップ①グループワーク	対面授業
6	7月11日	土		日本語能力/フランス語	○	墨ワークショップ②個人制作	対面授業
7	7月18日	土		フランス語	○	うちわ制作①制作準備	オンライン授業(youtube)
8	7月25日	土		フランス語	○	うちわ制作②個人制作	対面授業
9	8月1日	土		フランス語	○	「日本画」絵の具と墨での制作①共同制作	対面授業
10	8月8日	土		フランス語	○	「日本画」絵の具と墨での制作②共同制作	対面授業
11	8月15日	土		フランス語	○	講評会	オンライン授業(Zoom)
12	9月5日	土		フランス語	○	銀箔ワークショップ①共同制作	対面授業
14	9月12日	土		フランス語	○	銀箔ワークショップ②個人制作	対面授業
15	10月17日	土		フランス語	○	発展ワークショップ①	対面授業
16	10月24日	土		フランス語	○	発展ワークショップ②	対面授業

学習目標

「日本美術」を題材に、ときに拡大解釈も混じえながら実技制作を行なっていきます。この授業で重きを置くのは技術習得や作品の出来上がりではなく、不慣れな画材を通じてそれぞれが実験・発見を積み上げていくことです。そのため前半では複数人での共同制作や鑑賞会といった少し変わった環境を織り交ぜ進めていきます。授業を通じ日本美術へと関心を持つきっかけをつくること、今後専門分野に分かれても応用していける引き出しをつくることを目指します。

予習・準備物

筆記用具、汚れても良い服装

注意事項

対面授業は進行状況を鑑みて、内容の前後や多少の変更もあります。（オンライン授業日は原則変更しません）

評価方法

参加意欲と授業態度を重視します。